

フッ化物洗口事業実施における検証結果の概要について

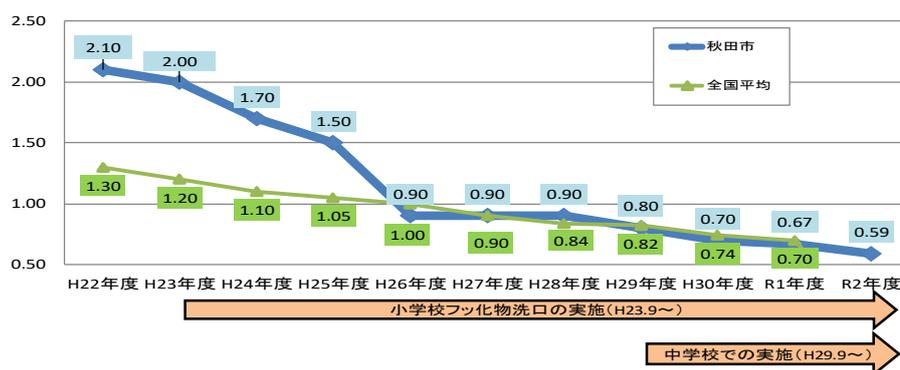
本市では、小中学校において、児童生徒のむし歯予防対策の推進と自らの健康に関する意識の向上を図ることを目的に、平成23年度からフッ化物洗口事業を実施している。

令和2年度末に卒業した中学校3年生が、小学校入学後9年間継続して事業に参加したことから、事業効果等について検証を行った。

1 平均むし歯本数の推移について

中学1年生の平均むし歯本数は、フッ化物洗口事業を実施する前の平成22年度には、全国平均を大きく上回る2.1本であったが、令和2年度には0.59本まで減少した。

中学校1年生の平均むし歯本数～平成22年度～令和2年度学校保健統計調査より～



平成29年度から、フッ化物洗口事業の対象を中学生まで広げた。

中学3年生の平均むし歯本数は、事業を実施する前の平成28年度には、1.36本であったが、令和2年度には0.9本まで減少した。

中学校3年生の平均むし歯本数の推移

年度	H28	H29	H30	R1	R2
秋田市	1.36	1.40	1.34	1.05	0.90
秋田県	1.38	1.34	1.05	1.00	-

上記のデータから、フッ化物洗口を継続して実施することによるむし歯予防の効果は大きいと考えられる。

2 事業環境の整備とその効果について

- ・秋田県薬剤師会等の関係機関に、洗口薬剤の管理等を委託するとともに、教育委員会で洗口用具を定期的に交換するなど、安全な事業環境の整備に努めた。
- ・歯科衛生士や学校歯科医による訪問指導のほか、フッ化物洗口マニュアルや啓蒙動画の作成等により事業効果を高める環境を整えた。

フッ化物洗口事業の参加率

年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R 1	R 2
小学校	88.3	87.4	87.4	89.0	90.4	90.4	92.4	92.4	92.7	92.9
中学校	—	—	—	—	—	—	67.9	82.2	86.8	89.2

令和2年度の参加率は、小学校で92.9%、中学校で89.2%となっており、年々上昇している。

関係機関と連携し、事業環境の整備に努めたことが、児童生徒や保護者の安心感に繋がり、参加率が向上したものと考えられる。

3 保護者アンケートについて

令和2年度末に、全ての児童生徒の保護者を対象に、フッ化物洗口に関するアンケートを実施した。

フッ化物洗口を学校で行うことについて

・参加している児童生徒の保護者

・参加していない児童生徒の保護者

学校で実施してほしい	96.0%	学校で行うことはかまわない	81.9%
学校ではなく家庭で行うべき等	4.0%	学校ではなく家庭で行うべき等	18.1%

多くの保護者が学校での実施を望んでおり、参加していない児童生徒の保護者からも事業の実施について一定の理解が得られている。

4 事業検証の結果と今後の方向性

フッ化物洗口を継続して行うことは、むし歯予防効果が高く、強化された歯質を成年期、老年期と生涯に渡って引き継ぐことになるため、成長期におけるフッ化物洗口は効果的である。

また、身近な題材である歯・口の健康づくりを通じて、生活習慣が要因となる疾病対策に取り組むことは、子ども自身の健康意識の高まりにつながっている。

多くの保護者も事業継続を望んでおり、一人でも多くの児童生徒が生涯を通じて健康な生活を送ることができるよう、今後も事業を継続していく必要がある。